

## 平成30年度第1回利賀地域審議会会議録

- 開会時間 平成31年2月15日（金）午前9時00分  
閉会時間 平成31年2月15日（金）午前10時35分  
会議会場 南砺市利賀行政センター2階 特別会議室  
出席委員 城岸 一明、米倉 宗嗣、嶋田 忠夫、小島 一隆、岡部 光昭  
野原光三郎、野原 宏史、野原 一司、上田 明美、久保 浩子  
欠席委員 なし  
市側出席者 田中幹夫（南砺市長）、齋藤宗人（市長政策部長）、川森純一（市民協働部長）、荒木信人（市民協働部担当部長）、上口長博（市長政策部担当部長）、小森 典（地域包括ケア部長）、柴 雅人（地方創生推進課長）、石崎 修（行革・施設管理課長）、市川孝弘（南砺で暮らしません課長）、藤井博之（医療課長）、岩腰 肇（利賀行政センター長）、笠原哲夫（利賀行政センター次長）、亀田秀一（地方創生推進係長）、山田智紀（秘書係長）、山下真人（行革推進係長）、石本 裕（南砺で暮らしません課協働のまちづくり係長）  
傍聴者 0名  
協議事項 (1) 地域づくり検討会議の結果について  
(2) まちづくり検討からの提言について  
(3) 庁舎統合後の行政センターの業務内容等について
- 会議経過
1. 開会  
事務局（センター長）から開会を行う。
  2. 会長あいさつ 会 長
  3. 市長あいさつ 田中市長  
地域づくり検討会議の結果について  
まちづくり検討会議の提言について  
庁舎統合後の行政センターの業務内容について
  4. 議題  
(1) 地域づくり検討会議について  
柴地方創生推進課長より、資料に基づいて説明。

(会長) 当局から説明があった件について、委員からの発言を求める。

時系列的には庁舎問題があり、町部はまちづくり検討会議、村部は地域づくり検討会議を開催されていますが、ワークショップ的な段階で止まっており温度差が非常にあると思うが、大まかな内容について説明していただきたい。

(担当部長) まちづくり検討会議は庁舎問題を契機として、庁舎が無くなることで地域の賑わいも無くなるという懸念から、会議を開催され、庁舎が無くなっても、どんな町づくりを目指していくかが議論されてきた。

村部の地域づくり検討会議についても名称は違うが、スタート地点が違い紛らわしくないよう名称は変えさせていただいた。まちづくりは町部だけでいいのかと言う議論もあり、新たな総合計画を作る中で村部の地域づくりも説明する必要があるため会議を開催した。これまで、まちづくり検討会議を15回開催したがワークショップ形式で進めた。

地域づくり検討会議についても会議形式だと意見が十分に出て来ないため、広く皆様から意見をいただくためワークショップ形式で4回開催させていただいた。

まちづくり検討会議では地域課題の洗い出しや将来目標、今何をやるべきかを洗い出ししていただき、他の地域住民との意見交換をする場を設けて進めてきたが、地域づくり検討会議ではそのような場を設けず出来上がった段階で、住民の意見を聞く場を設けさせて頂いた状況です。今後は皆さんの思いを如何に実行に移していくかが大事であり、その作業を今年度から来年度の2カ年で進めている、その中にしっかりと意見を共有して方向性を出したい考えです。

(市長) 補足ですが、昨年10/6の議会で庁舎についての提言をいただき、庁舎のある4つの地域づくりについて住民の皆さんから意見を聞いて欲しいとか、若い人の今後の地域づくりを先ずは町部の中で聞いて欲しいから町部が先にスタートして、当然、時期を見て総合計画に入れるため、村部についても若干時期はずれたが同時にスタートした。

プロセスは若干あったが将来像のきっかけが庁舎問題や山村過疎地の課題でありそれをどう理解してもらうかを取り組みたい。まちづくり検討会議や地域づくり検討会議ではいろんな意見を聞く手法として、ワークショップを行なっている。この会議で多くの年代層若しくは男女等が集まった場合は、今までのやり方では全員の意見を聞く事が難しいので、ワークショップ形式により今後は具体的なモノを導き出し、皆さんの意見を聞き総合計画に入れ

ていく。

村部は地域づくりのやり方、町部は公共施設再編と庁舎の有り無しの具体的な話の検討があるため同じスタートラインで取り組んでいくことをご理解いただきたい。

(A 委員) 説明については概ね理解したが、今後は具体化されたことを集約しながら総合計画を進められていくと思うが時期的なことや、どのメンバーを対象に意見を集約する手法とかを細かくお示ししていただきたい。

(担当部長) やるべきことを実現していくのがアクションであり、当然市がやれること、市民の皆様に使っていただきたいことを振り分けながら進めて行く。

今後は総合計画の中で市内全域から委員を選出して市民会議を開催し、小規模多機能自治31地区のご意見・検討会議の意見も集約して、市民と行政の役割分担を決めながら進めていくが、時期的なもの等があり今の段階では周知できない。

(市長) 2019年度は総合計画の最終年度であり、次期総合計画も作成するが、その間にプロセスを作り市民会議を立ち上げ、まちづくり検討会議を踏まえて、新たに専門的な部署係を作り、4月以降に進めていくので皆さんからの意見を頂きたい。

(副会長) 地域づくり検討会議の意見が書いてある紙に、目を通した人がワークショップの意見では地域色の意見が無いので、地域色の表れるものと一般的なものと混じったものが良い。

(市長) ゴールは一緒だが、どこが先にスタート切るか、井口が特認校を進めているが、利賀のアーパスで直ぐにそれを出来るかわからない、井口は子育てと保育園を含めた教育環境を如何に整備していくか、利賀の場合では利賀ダムバイパスや、今年演劇が大きなイベントを開催するが、その後どう繋げていくかで、ナントライフ、都会からの交流人口、イベント等が少し見えてくる。

今の特色を活かすことで地域の色も見えてくるので5カ年計画をきっちりやっていく。

(B 委員) 地域づくり検討会議の集まったメンバーを見ても若い人の意見であり、実際住んでいる年配の人も入れて年寄りなりの住みやすい意見も聞いていただけたらいいと思います。

(市長) 高齢者の意見も必要であるし、住民アンケート調査や公共交通、病院問題等の意見も大事である。

(C 委員) 口山地区の現状では今後5～10年後に心配することが沢山あり、振興会のメンバーが今年の総会で5年～10年先に皆さんが商売をやっているかどうか。また現在、20代～30代の人達の顔を見るが話をしたことが無いし、これから10年先、20代～40代が顔を合わせ、意見を言い合い作り上げなければいけないと思う。

昨年、振興会総会で意見したが、安心して暮らすために地域でどの位のイノシシがいるか住民に説明して欲しい、実績を伝えることは出来るのか。

(市長) 若い人のコミュニティには危機感があると思うが、利賀や五箇山も外部から学生が応援している。南蟹谷地区は若い層と年代層のマッチングが上手くいき学生とのふれあい等、大学との連携が上手くいっている。

富大、県立大等にも投げかけてみて、そこから広がっていくことがある。相倉は1軒入って欲しいとのプロジェクトに、1組入ったら3組戻ってきた、普段住んでいない人も入ってくる、そんな刺激があると上手くいく。

イノシシは有害鳥獣でもあり統計はあるので情報は提供できるし、一頭捕ると補助金も出る。

(C 委員) 今後の大きなイベント対応については、民宿組合だけでは出来ないため、民泊業者等を含めた組織を立ち上げ、その中に口山地区も一緒に参加して交流事業も拡大していければいいと思う。

(市長) 大いに拡大して欲しいし、学生等はアルバイトからスタートしたらどうか。利賀大橋を見に来る人や写真家等は増えているかどうか。

(C 委員) 昨年十月に出来た時は紅葉シーズン、今は冬景色であり庄川船舶も含めて写真を撮影に来る人が多いが、橋の両側に車を止めている状態、真ん中一車線しかない状況であり、安全対策についてもお願いしたい。

(市長) 安全がまず第一、ダム所長との協議では、全国に出ている利賀大橋の写真が増えている。

(C 委員) 昨年は絶景ポイントの伐採を市担当課にさせていただき有り難い、今後は安全対策もお願いしたい。

(2) まちづくり検討会議について

行革・施設管理課長より、資料に基づいて説明。

(市長) 各地域を回ってきても今は余り議論が出来ていない状況ですが、町部の意見では庁舎を壊すか使うか、地域の合意整形が出来ていない。福光高校の再編問題等もあるが、若者は民間と連携したいという考えもある。

各地域の合意形成を取るには相当、力が必要であり、検討会議の意見だけでなく意見がまだまだあるので、時間をかけ地域で何が必要で誰が運営して纏めていくか、地域上げてやるぞということにはなっていない。

(会長) 庁舎問題では自分の地域の事ばかりで合意形成が出来ないため、まちづくりの検討が遅れた、もっと大枠で考えるべきである。

南砺市のまちづくりをどうするか、中身は自分の町だけに執着しているので、今後どういう風に分析していくか。

自己性ではなく利他的なまちづくりが大事、南砺市全体を捉えて利他的なまちづくりを進めることを、しっかり考えて利他的な共生のまちづくりを進めて欲しい。

(市長) 大事な観点であり、それぞれのまちづくりを皆さんと共有することが大事、議事録により町の人にも発進していくことが大事であり、何が必要かの観点も含めて来年度、専門的な人も含めて検討していく。

庁舎のことで熱くなったが、なんとなく自分の地域の事ばかりだが、今までのような雰囲気ではなく若者は広くモノを見ている。

改めて公民連携とか一緒にやる、利他的にする意見も沢山ある、クローズアップして全体のまちづくりに繋げていきたい。

(3) 庁舎統合後の行政センターの業務内容等について

市民協働部担当部長より、資料に基づいて説明。

(会長) 行政センターの特にマンパワーの現状維持をお願いしたい。

それが前提の元で、統合庁舎の関係は距離感もあるが、声を大にしている考えてもらいたい。

(市長) 原則今までは行政センターに市民窓口・振興窓口があったが、振興窓口は市担当課へ持っていくので、以前と同じ対応は出来ない。

大きなイベント窓口が本所になるが、事務局は地域でお願いしたいし、具体的に一年間の業務内容を精査して検討したい。

(副会長) 利賀行政センター職員が8人から5人に削減となり、男女比率の目安も考えるが、自治振興会でもイベント関係をどこかに集約して、イベント協力してくれる地域の人を最大限に利用し、現場対応や地域のことに係われる人を増やす方針を探っていただきたい。

(市長) 窓口業務は全員が出来るように、何かあると男性マンパワーが良いか女性マンパワーが良いか、だいぶ違ってくるので内部で検討している。

男性女性の比率は配慮してやって行きたいし、救急業務があるだけでも違う距離感等、いろいろ含めてどうあるべきか検討したい。

振興窓口職員29名は本課に行くが、職員の協力を得ることで、そば祭りが3日間できればと考えているが、大型のイベントは今後検討したい。

地域でどんな事が出来るか等、把握して意識しながら検討していきたい。

(C 委員) 南砺市職員の採用方法で、10年のキャリア・新規採用はどう考えていくか。

(市長) 応募試験は別々に開催しており、10年で103名の職員は減っていく。キャリア・新規採用・中途採用等で年3回の試験を実施しているが、最終的に即戦力はキャリアの方が多く感じられる。

## 5. 議長解任

## 6. これより利賀行政センター長が司会

### (1) その他

公立南砺中央病院3階旧病棟の活用について(状況報告)  
医療課長より、資料にて説明。

委員からの意見なし。

## 7. 閉会あいさつ 副会長

## 8. センター長から閉会宣言